

2020年
1月01日
第3号

Welcome TOKYO 25th

第25回全国交流集会
現地・東京実行委員会
発行責任者 斉藤邦彦

<第25回全国交流集会>

5月16日(土)13時

17日(日)12時まで

[ニューウェルシティ湯河原]

参加費:16,500円

昨年11月8日に全国の仲間を暖かく迎えるために、ホテルの下見を行いました。当日は奥山信義県協連副会長の車で現地に向かい、ホテルの責任者から説明も受けながら下見ができました。当ホテルは、湯河原厚生年金会館が前身であり、労働組合等の大会など多数行われている所です。それを万葉倶楽部系列の「ニューウェルシティ湯河原」が取得



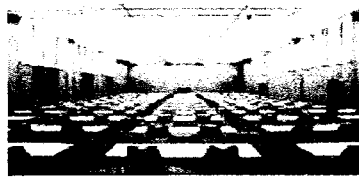
ホテルの下見を行う

施設の設備申し分なし

東京現地実行委員会事務局次長 小泉勝久

得して運営継続し、一昨年に全客室リニューアルしました。全室禁煙です。喫煙室はB1Fと3Fにあります。

全体会場は、2階「大観の間」で、



250席もある会場です。舞台の高さ1m、横幅7m、奥行き4mです。

スタンド

マイク2本、ワイヤレス3本使用できます。舞台天井からのスポットライトもあります。入り口に受付を配置し、物販等々の机配置は可能です。

宿泊部屋は、和室12畳が基本です。全室「鍵」はカードキー2枚あります。室内



に風呂はありません。浴衣・タオルは部屋付です。髭剃り・歯ブラシは、

B1F大浴場「万葉の湯」

「不動の湯」にあります。

利用時間15時～24時、5時～9時30分までです。

1階通路で露天風呂「いずみの湯」(日帰り入浴者

もあります)も利用可能です。

露天風呂「いずみの湯」です



露天風呂「いずみの湯」です

利用時間1時～翌0時まで。各部屋に冷蔵庫(中は空)

があり、利用可能です。自動販売機はありません。売店は1F24時間営業。出口にコンビニもあります。飲み物類はホテル内です。

車で来る方は、普通車127台収容できる大駐車場があります。バス・マイク口など大型車は事前予約が必要です。



JR湯河原駅前ロータリー

電車利用の方は、湯河原駅から送迎バス(1時間1本)か路線バスになります。県協など団体利用の時は、3月県代に提出する「参加者申込書」の備考欄に湯河原駅到着時間を記入ください。大型バスでの送迎も折衝中です。

人に歴史あり

いごっその私 仲間の存在

政治から変える 趣味の写真も私は土佐の高知出身。「いごっそ」(高知弁で頑固さ)をもって生きてきました。また、今までこれたのは、困った時に相談できる「まなぶ友の会の仲間」の存在があったからです。現在76歳▼最初の職場では会社都合で出向させられ、復帰の目途がなく退職。転職した医療生協の職場で31年間働き、60歳定年退職時、退職金が見直され400万円減の1400万円にされました。労組の諸要求とあわせて、減額撤回の闘いとして裁判を闘ったが、63歳からの再雇用で和解決しました。

▼退職後、新社会党や労組の諸活動に精一杯取り組み、区議選などでは候補者と行動を共にし、怒りのエネルギーを「政治から変える」「社会を変えよう」と頑張っています。私は人から当てにされると「いや」と言えない性格です。これからも、まともな社会に変えていくために微力ではありますが、仲間と頑張っていきたいと思えます。また、趣味の「写真」も生きがいとして続けていきます。

東京北部協 永野勝海
ほのお友の会

東京各県協の取り組み

東京南部協

他と積極的交流す

今年是他県協とも交流しようとして積極的に取り組んできました。その一つに、南部協のまなぶ講演会を「消費税について」元国税のIさんに講師を依頼し学びました。そのIさんが他県協からも講演を依頼され、Iさんだけでなく他の仲間も一緒に参加し交流した。

東京中部協

交流を通じ

団結が深まった

11月26日にJAL争議団の鈴木圭子さんを講師にまなぶ講演会を開催しました。獲得目標の「交流を通して団結を深める」は達成できました。当日参加者は30名で、JALの解雇のひどさや鈴木さんが組合に入らな経過など含めての話は互いの共通認識が深められた事と、イベントのアイデア

間も一緒に参加し交流した。

また、国労大会代議員選挙を戦ったKさんも他の仲間も含めて他県協と交流しました。更に南部県協読者大会は四役で下見を行い、東京の他県協からも交流に参加してもらい、仲間の連帯感が深まりました。

ルコール検査が8回も

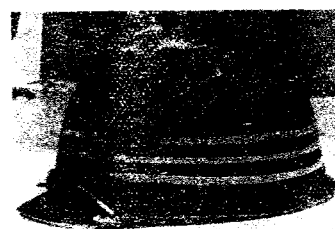
やらされている内情も知り、会社が立てて自己責任にしている事を周りに広めたいという感想も出されました。

最後に鈴木さんから、一方の違から足を引張る仲間という思いにもなるが、本当に許せないのは、会社資本である事は一貫しているという怒りが強く出され、参加者の運動と絡めての交流にも繋がった充実したまなぶ講演会でした。

寸劇班 始動する 三池労働者運動の歴史からまなぶ

昨年は、「家族ぐるみの闘い」を土台に、三池労働者闘いの闘いを支えとともに闘った「三池主婦会」の歴史から学び、ストライキを解除し、就労闘争へと突入して行き

学ぶことを取り上げました。今年は一960年の「安保・三池」闘争から60年の節目です。「三池労働者運動の歴史からまなぶ」をテーマに、1200名の指名解雇撤回に向けた無期限ストライキに突入した三池労組は、



今回の寸劇は、この就労闘争を構成劇として表現できるように企画してみました。

シナリオ、役者、小道具などのスタッフを東京6県協へ依頼し、1月から台本読みなどをスタートさせる準備中です。全国の皆さん！乞うご期待ください。

あの日 あの時

東京三多摩県協

渡部 昌弘

後 入会しました。入会の決め手となつたのが、家族

2007年7月末日に定年退職し、4年間の再雇用も終え、残りの人生をどう過ごすのか岐路に差しかかっている矢先、2011年12月に三多摩県協から旗開きの誘いがあり、張つているのを目の当りにした時、暇だったので気軽に参加しました。この時は会員になるという考えは全くありませんでした。翌月から一回、

解説

「三本線」

三池闘争が収束され一斉就労が始まった。差別と切り崩しが連日連夜繰り返された。「人らしく生きるため」新しい抵抗体、五人組運動を展開した。構内帽（ヘルメット）は「二本線」がある。「黒く塗った坑内帽（ケンキリ）と白線一本（中略）これが闘争中の鉢巻に変わった。三池の労働者を象徴するものであったこの二本線はフランス革命の「自由」「平等」「博愛」になぞらえて「団結」「抵抗」「統一」を意味するものと、三池労組の長期抵抗路線のシンボルとなつた（中略）就労にあたり、三池労組員と第二組合員とを坑内でもわかるように白の3本線がくられた（中略）白線の幅（ミリ）と統一された（み）け二十年、三池炭鉱労働組合編。